



< 北 陸 発 > にぎわい

～ 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～

会員だより (福井県坂井郡三国町)

～ 「2003福井港フェスティバル&ポート天国」開催～

7月27日(日)、絶好の海日和に恵まれたこの日、福井港で「2003福井港フェスティバル&ポート天国」が開催されました。



このイベントは、福井港を「遊空間」として開放し、一般の人々が港や船に対する関心を高めることで、海洋性スポーツ・レクリエーションの普及発展と地域の振興に寄与することを目的に、福井港振興協会をはじめとする関係機関、地元民間団体が実行委員会を設け、連携して開催したものです。

昨年改名し、2年目を迎えたこのイベントには親子連れなど大勢の人々が訪れ、クルーザーや尾形船、監督測量船「まつかぜ」による体験航海のほか巡視艇「あさぎり」、漁業調査船「福井丸」の一般公開など多彩な催しがありました。中でも、水上オートバイやホバークラフト体験はスリルもあり子供たちには大人気でした。陸上でもアニマルトレインやおもしろ自転車、ヨーヨーつりなどが催され、終日多くの人たちで賑わいました。



福井県



会員だより (富山県)

～ 富山新港旅客船バース供用開始記念式典の開催～

平成3年より富山新港(伏木富山港新湊地区)で整備を進めていた旅客船バースがこのほど供用開始を迎え、9月10日(水)に供用開始記念式典が開催されました。



この旅客船バースは、旅客船によるクルーズ需要に対応し、環日本海における人と文化の交流拠点となることを目指して、事業が進められてきたものです。

バースの延長は220メートル、水深は-7.5メートル。国内の旅客船を中心として、今後多くの旅客船に利用され、賑わいのある港づくりに寄与するものと期待されています。

また当日は、旅客船「飛鳥」が第一船として入港し、歓迎式典として地元新湊高校の吹奏楽部による歓迎演奏や、地元有志による「おわら」「こきりこ」の踊りが披露されたほか、伏木富山港や県内観光地を紹介するパネル展、物産展が行われ、多くの人々でにぎわいました。



富山県



会員だより（輪島市）

～ 輪島港と輪島塗～

輪島市は、日本海に突出した能登半島の北端に位置し、市街地にある輪島港は中世に「親の湊」と呼ばれ、日本を代表する海上交通の要衝「三津七湊」の一つとして賑わいました。北前船などにより全国に広められた輪島塗はJAPANと呼ばれる漆器の伝統技が現在も受け継がれており輪島の主産業となっています。



輪島港は日本海での好漁場である大和堆への前進基地として漁船数も多く、活気がみなぎっています。また、能登半島沖を通る船舶の避難港としても指定されており、国土交通省により第4防波堤の整備が進められています。

また、市街地に隣接したエリアで18.7haのマリントウンプロジェクトとして埋め立ても行われています。この埋立地には、大型のコンベンション機能のある都市型ホテルの誘致活動も行っており、海をテーマとした「日本海シティー輪島」にふさわしい滞在型の観光地を目指し、整備を進めています。



石川県

～ 新たな玄関口～



平成13年3月末で鉄道が廃止されました。観光都市“輪島”として地図上から鉄道駅が消えるという大きなダメージを払拭すべく、それに替わる「道の駅輪島」を整備しました。“ふらりと訪れる”“バリアフリーの街のフラット”“鉄道駅のプラットホーム”をもじって名付けられた「ふらっと訪夢」がバスターミナル機能を有した新たな玄関口として誕生しました。ふらっと訪夢の裏には、JR線の終着駅であったときに旅人がジョークで記した「次は“シベリア”」の駅名看板も線路とともに残されています。



～ サンセットクルーズ～

輪島市の24km沖にある七ツ島（無人島）にゴジラ岩が出現！？体長50mぐらいと大きく新たな観光スポットになるかもと期待しています。また、その周辺海域は透明度が30～40mと良く、最近スキューバダイビングにも開放されています。そして夏には、輪島港より出航するサンセットクルーズが人気をかくしています。七ツ島に沈む夕陽をビールを片手に観る感動はまた格別です。



会員だより（糸魚川市）

～ 姫川港 - 開港30周年～

糸魚川市は新潟県の西南端に位置し、ヒスイの産地として知られており、海拔0～3,000mまで広がる大自然の雄大な景色と四季折々の新鮮な山海の味覚、フォッサマグナの恩恵で湧き出る個性的な温泉等が楽しめる観光地であり、悠久の歴史と文化が息づくロマンを秘めたまちでもあります。

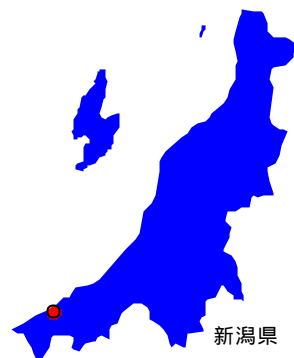
市の西端に位置する姫川港は年々貨物取扱量が増加し、今年の4月23日に地方港湾としては唯一総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に2次指定されました。

現在、姫川港では主にセメント、石灰石、石炭などを取り扱うほかに、石炭灰や鉍滓（スラグ、カラミ）などの循環資源を多く受け入れ、セメントの原燃料として再利用しています。今後も、循環資源を積極的に受け入れ、静脈物流ネットワークにおける日本海側の拠点として、循環社会形成の一翼を担っていくことが期待されています。



姫川港は昭和48年に開港し、今年で30周年を迎えました。6月3日には記念式典を挙行し、(社)日本港湾協会の栢原理事長をお招きし、「姫川港の今後の課題」と題して、全国的に見た姫川港の状況や今後の役割について講演いただきました。その他、港湾功労者表彰やリサイクルポート指定の披露等を行い、盛大に30周年を祝いました。

また、開港30周年記念事業の一環として、8月14日～18日には、独立行政法人航海訓練所の練習帆船「海王丸」を招致しました。この「海王丸」は開港20周年の際も招致していたものです。入港期間中、セイルドリル、船内一般公開や大花火大会が行われ、多くの人でにぎわいました。特に、帆を張った海王丸は圧巻の一言で、見学者は海の貴婦人の優雅な姿に感動していました。



編集・問い合わせ先 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

北陸地方整備局 港湾空港部 港湾計画課：武田、川見 TEL 025-265-7781